



まだ間に合う！申し込み

イリスの演奏、聴いてみたくありませんか？

総会、催し物等出席希望はこのメールに返信を！

6手連弾ユニット「ピアノトリオ・イリス」

2010年に結成された希少な6手連弾ユニット。ピアノ講師ならではの目線でコンサートを企画。ピアノ曲の枠を越え、オーケストラ曲を中心としたオリジナル編曲で、地元狭山の音楽文化向上に尽力している。これまで、所沢ミュージアムや新所沢松明堂ホール等で演奏会を開く。メンバーは向野貴子さん、吉見留美さん、原田宏美さんの3人。それぞれが狭山市内でピアノ教室を主宰している。

向野貴子：高音部担当。個人プレーで才能を発揮するB型の特徴をフルに活かし、メロディを華麗に奏でる。粒の揃った速弾きは聴きどころ。1番SNSに明るいメンバー最年少。

吉見留美：中音部担当。真面目なA型を地で行く頭脳派プレーヤー。主旋律も和音も作るパートで、ペダルも担当。自分が弾かないパートのペダルも操作し、半端なく気を遣っている。

原田宏美：低音部担当。イリスの編曲担当でもある。コツコツ地道に積み上げるのが好きなしぶといA型性格を楽譜制作に向けて発散。曲のテンポを司り、ハーモニーの土台を支えている。

＝ 当日の演奏予定曲目 ＝

(6手連弾)

- ・アイネクライネナハトムジーク
- ・美しく青きドナウ
- ・アイガットリズム
- ・シングシングシング

(リズム手遊び)

(みんなで歌いましょう)

- ・カリンカ
- ・ふるさと
- ・茶摘み
- ・学生時代
- ・川の流れるように



理事会報告

第50回理事会 2023年5月15日

総会前の最後の理事会でしたので、総会に向けての具体的な話し合いが持たれました。当日の進行に沿って、司会や議長等、各人の役割も決まり、交流会の飲食担当からは当日のメニューや配膳についての報告がありました。催し物担当からは当日の流れや、6手連弾の手元を見られるピアノの位置についての提案がありました。今年の総会は全理事が役割分担し、総力を挙げて取り組んでいます。

(おまけ…地区推進委員会報告)

第5回の『地区活動推進委員会』も5月11日に開かれました。担当理事から「昨年度はコンサートを行ったが、今までと違った催しを計画したい」「早急に地区活動のサポーターを探したい」「あまり肩ひじ張らず、集まって楽しむことを目的に活動を考えていきたい」等々、積極的な意見が出されました。今年はどうな活動が組まれるのか楽しみです。連絡があった時は是非ご参加ください。



ちょっといいは・な・し

年齢差75の交流、2年後の初対面

小生には2年前の3月から交流を続けている少年がいる。愛媛県西条市に住む「中岡義」君だ。小生と同姓同名である。当時小学1年生で、この4月からは4年生になる。きっかけは、この少年がパソコンで自分と同じ姓名の小生を見つけ、手紙を書いてくれたことである。小生は、この好奇心旺盛な75歳も年下の小1生に好感を持った。それ以来、義君とその母親の両方と「文通」をしている。月に2、3便の往復で、この4月1日現在でともに通し番号がNO.43と付いている。その義君が小3を修了して4年に進級する合間の、この春休みに家族旅行（両親、小5の姉）で関東を巡るうちの1日を、小生に会いたいというのだ。



9時37分にJR武蔵野線東所沢駅で、義君一家を出迎える。ご両親の顔も声も知らない。改札から10メートル余り離れて待っていると、マッシュルームカットが特徴の義君と姉の歩音さん^{あゆね}と思しい親子4人連れが目に入る。先方も気付いたのか、改札を出る前に笑顔で一礼。改札を出て駆け寄ってきた義君を抱きしめて、改めてお互いに自己紹介。この駅で待ち合わせしたのは、3年前の20年8月にできた「角川武蔵野ミュージアム」なる「図書館」を見学するため。隈研吾設計の、窓一つなく外からは凸凹の石の壁だけの、その巨大な建造物には圧倒される。そこは駅から信号を2つ過ぎたところであり、ゆっくり歩いて10分ほど。道中はずっと義君と手をつないで歩く。こんなの恥ずかしいが、お母さんが促した^{うなが}のか。新鮮であった。入館後は4人と別れて自由行動とし、小生はぶらぶらと館内を徘徊したりベンチに腰掛け、手に取って一瞥^{いちへつ}したり……。狭山に立ち寄るとお聞きし、ここを旅程に推薦したのは小生だった。だが、一番の気掛かりは、どこまで気に入ってもらえるかである。歩音さんのように、毎日本を手放すことなく読むような本好きには、終日いても飽きないだろうが、義君にはちょっと早すぎるかも、とも。

2時ごろ次男の崇が小3と中1の息子を連れてサクラタウンまで迎えに来てくれ、狭山の拙宅へ。ここでは【中岡義】の表札を挟んで写真を撮ることが一番の目的だった。義君に「この表札はちょうど50年前に韓国へ会議で行った時に作ったもので、おじさんが死んだら、義君にあげる」と伝えたが、こんなのを貰っても、とも思う。30分あまり滞在。

その後、車で広瀬のカラオケチェーン店「ビッグエコー」へ。子供たちを中心に、義君への最高の「歓待」はゲーム大会だと想定してのものだ。崇の子供も加わってのテレビゲーム大会だったが、思ったより大正解だった。大人4人は子供の「教育問題」や愛媛出身・大江健三郎のことなどで雑談。子供たちはもっと続けたいようだったが、3時間半ほどの滞在で切り上げる。



車で根岸のレストラン「爆弾ハンバーグ」へ行き食事。食後、狭山市駅までお送りし、8時前にお見送りする。今夜も調布泊りとのこと。はたして満足してもらえたのかどうか。誰かが、「この4月1日は中岡義記念日」と言った。そういう風に受け入れてくれる人がいたのも、うれしく思えた。帰りに崇の長男が車中で「新しい親戚が増えたような不思議な感覚だ」と言ったが、小生も同じ思いた。（中岡義さん）